



山王校報

第219号



自分たちの手で

校長

加賀谷

亨

重さ8 kgから10 kg、部活動の用具などを加えるとさらに重量が増して…。一昨年頃から、通学用のかばんが重すぎるとして、子どもたちの負担を減らす必要性が全国的に話題となりました。

「通学を楽に『置き勉』じわり」(H 30・5・27付け朝日新聞)

新聞にはこんな見出しが躍り、その年の九月には、文部科学省から全国の教育委員会に対して、ランドセルなどが重すぎるといふ意見を踏まえて、宿題で使わない教科書などは教室に置いて帰ることを認めるように求める通知が出されました。主に小学生の負担軽減を目的としたものでしたが、中学生にとってもかばんの重さはかなりの負担となっていましたので、本校でも昨年度具体的な改善策を求めて検討を始めました。

主体となったのは生徒会の学習委員会。かばんを軽くするための方策を巡って議論が続けられました。当初は、家庭学習がおろそかになるとか、紛失したら困るといった理由から、学習用具を学校に置いていくことに疑問の声があります。しかし、かばんの中身を少なくする以外に手はないことから、試験的な導入により成果と課題を明らかにすることとなりました。その試行に取り組んだのが現在の三年生です。その日の家庭学習の計画や次の日の授業をにらんで学校に置いていく学習用具を自分で判断し、二週間ほどの「実験」に挑みました。生徒諸君は、置き勉を実施した学級と実施していない学級とで、家庭学習や忘れ物の状況を比べることで成果を確認していました。

結果は、手応えあり。こうして、本格的に置き勉が可能となりました。そして、置き勉は同時に、より主体的な家庭学習へとつながることとなったのです。この作戦のミソは、「家庭学習で使うことを考えた上で」置いていくかどうかは自分の判断」にありました。「自分(たち)で考え、自分(たち)で判断し、自分(たち)で決定する」プロセスは、生徒諸君を一歩大人へと近づける貴重な機会となりました。

この取組に先んじて、図書委員会ではそれまで開かずの扉であった図書室の終日開放を実現し、コロナ禍の本年度は、感染防止対策や酷暑対策としての生活の仕方を各種委員会が提案してきました。二年生がリードする後学期に入ると、年度当初の活動をスムーズに進めるために生徒総会のあり方を変え、それまで不便だった図書室への導線を変更し、冬期間の膝掛けの使用を認める決断を下しました。

そこには、自分たちの生活を自分たちの手で創り上げようとする山王中生の意識の高さと心意気がありました。「自治」(自分や自分たちに関することを自らの責任において処理すること)の精神を身をもって示す山王中生に感心させられるとともに、何でも人のせいにするのではなく、自分以外の人に頼り切りにならず、できない理由を探さずに自分にできることを模索する大人にならなければと気持ちを新たにしています。

吹奏楽部

私は吹奏楽部に入部し、「全日本吹奏楽コンクール全国大会で金賞をとる」ということを目標に練習を頑張ってきました。そして迎えた昨年度のコクールは、当時顧問だった木内恒先生の最後の年ということもあり、気合いを入れて臨みましたが、あと一歩のところまで目標を達成することができませんでした。「今年こそは」と意気込んでいましたが、今年はコンクール自体がなくなってしまい、部員全員が悔しい思いをしました。そんな中で現在顧問の飯嶋宏紀先生が各楽器の講師の先生をたくさん呼んでくださったので、今年はコンクールがなくなった分、一人一人の技術が向上した一年だったと思います。そして迎えた管楽合奏コンテスト全国大会は規模が縮小され、動画での審査となりましたが、その動画撮影の日は全員の心が一つになり、楽しんで演奏することができました。「よい演奏により結果がついてくる」というように、一人一人が全力で、よい演奏ができたからこそ最優秀賞という結果をいただけたのだと思います。今まで山王中学校吹奏楽部として経験したことは楽しいことだけでなく、辛いことや苦しいこともありました。それらを乗り越え、悔いなく終わったのは、お互いに助け合える最高の仲間がいたからです。そして、私たちが素晴らしい経験をすることができたのは、学校の先生方や父母の会の方々、地域の方々の応援があったからです。支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

部長 佐々木 智那

全国大会に出場して

バトン部

バトン部は、東北大会金賞、そして全国大会への推薦をいただくことができました。

今回の大会の演技は、どちらもビデオ撮影という形でした。そのため、例年よりも演技の雰囲気を見る人に伝えることが難しく感じました。しかし、練習のときから部員全員で踊り方や魅せ方を相談し合い、試行錯誤を重ね、よりよいものにすることができました。

今年はこのような状況で、活動を制限され、演技する機会が減り、とても悔しかったです。しかし、「こんな時だからこそ笑顔を絶やさず楽しもう」という思いでバトンと向き合うことができました。

部活動で得た、たくさんの経験や学んだことを胸に、これからも頑張っていきたいです。

部長 三浦 友萌香

生徒の活躍

【市秋季大会】		男子50m自由形		柏崎 文哉	第2位
■野球	優勝	男子100m自由形	柏崎 文哉	第2位	
■サッカー	優勝	男子800m自由形	土田 朝陽	第2位	
■女子バスケットボール	準優勝	男子100m背泳ぎ	渡部 響	第3位	
■卓球		男子800m自由形	高橋 清英	第3位	
男子団体	第3位(全県出場)	男子100mバタフライ	土田 朝陽	第4位	
男子個人 藤井 陽真	ベスト16(全県出場)	男子200m平泳ぎ	小田島 蓮	第4位	
■陸上競技		男子400m自由形	高橋 清英	第4位	
共通110mジュニアハードル	佐藤 将 第1位	男子200m平泳ぎ	藤谷 康司	第5位	
男子1年100m	佐々木 大 第1位	男子200m平泳ぎ	藤谷 康司	第5位	
男子1年生1500m	江畑 孝樹 第2位	男子800m自由形	渡部 響	第6位	
男子共通200m	佐藤 将 第3位	男子4×100mメドレーリレー		第1位	
男子共通800m	江畑 孝樹 第3位	(渡部 響、藤谷康司、土田朝陽、柏崎文哉)			
女子共通100mハードル	萬谷 由愛 第2位	男子4×100mフリーリレー		第1位	
女子共通走幅跳び	伊藤 那月 第3位	(土田朝陽、高橋清英、渡部 響、柏崎文哉)			
女子2年生1500m	田口 瑞香 第3位	女子400m個人メドレー	近藤カエラ	第1位	
男子共通4×100リレー	第1位	女子200m自由形	近藤カエラ	第1位	
(石井 輔、太田 峻、佐藤 将、佐々木大)		女子200m個人メドレー	伊藤 海音	第1位	
女子共通4×100リレー	第3位	女子400m個人メドレー	大原 梨桜	第2位	
(伊藤充生、平野内希和、朝香杏菜、萬谷由愛)		女子200m平泳ぎ	大原 梨桜	第2位	
男女総合	第2位	女子200m自由形	伊藤 海音	第2位	
男子総合	第2位	女子100m平泳ぎ	碓谷 咲歩	第3位	
女子総合	第2位	女子50m自由形	碓谷 咲歩	第5位	
■ソフトテニス		女子4×100mメドレーリレー		第1位	
男子団体	第3位(全県出場)	(碓谷咲歩、大原梨桜、近藤カエラ、伊藤海音)			
男子個人 馬淵健大、菅原拓斗	ベスト16(全県出場)	女子4×100mフリーリレー		第1位	
		(近藤カエラ、伊藤海音、大原梨桜、碓谷咲歩)			
女子個人 佐々木沙彩、阿部心渚	ベスト16(全県出場)	■陸上競技			
		男子100m	佐々木 大 第1位		
1年生大会 古田心蘭、武藤美奈	ベスト12(全県出場)	男子1500m	江畑 孝樹 第2位		
		男子110mハードル	佐藤 将 第3位		
		女子4×100mリレー		第3位	
		(伊藤充生、平野内希和、朝香杏菜、萬谷由愛)			
■柔道		■柔道			
男子団体	優勝	男子団体	準優勝		
女子団体	準優勝	男子個人階級別	伊藤 志竜 優勝		
男子個人階級別	伊藤 志竜 優勝	男子個人階級別	伊藤 志竜 優勝		
男子個人階級別	斉藤 大昂 優勝	男子個人階級別	斉藤 大昂 優勝		
男子個人階級別	武藤 大河 準優勝	男子個人階級別	梶縄 響世 準優勝		
男子個人階級別	梶縄 響世 準優勝	男子個人階級別	加賀谷海斗 第3位		
男子個人階級別	加賀谷海斗 第3位	男子個人階級別	古城 啓太 第3位		
男子個人階級別	古城 啓太 第3位	男子個人階級別	駒井 秀祐 第3位		
男子個人階級別	駒井 秀祐 第3位	女子個人階級別	工藤 凜 優勝		
女子個人階級別	工藤 凜 優勝	女子個人階級別	佐藤 サン 準優勝		
女子個人階級別	佐藤 サン 準優勝	女子個人階級別	武藤 百花 準優勝		
女子個人階級別	武藤 百花 準優勝				
【秋田市優秀選手賞】					
■バスケットボール					
男子 千田健志朗、最上 汎	優秀選手賞				
女子 森屋かりん、今井 舞央	優秀選手賞				
【県秋季大会】					
■野球	準優勝				
■サッカー	第3位				
■水泳競技					
男子総合	優勝				
女子総合	優勝				
【市民スポーツ祭】					
■ソフトテニス					
中学生女子の部 黒崎 眞歩、福田 美海	第3位				
■卓球					
中学生男子シングルス 藤井 陽真	第3位				

■柔道	中学生男子1年生の部	伊藤 志竜 優勝
	中学生男子2年生の部	武藤 大河 第3位
【招待大会】		
■第32回八竜招待	男子バスケットボール部	準優勝
	戸田 竣也	優秀選手賞
	女子バスケットボール部	準優勝
	藤井 陽世	優秀選手賞
■ぼぼろCUP 2020 IN OHUCHI JHS	男子バスケットボール部	優勝
■OGA クリスマスフットサル大会		
	山王中Aチーム	優勝
【文化部】		
■吹奏楽部	第26回日本管弦楽合奏コンテスト全国大会	最優秀賞
	中学校8部門	最優秀賞
	第24回県青少年音楽コンクール	準優勝
	管・打楽器部門	高橋 想 最優秀賞
	全日本アンサンブルコンテスト	
	第43回秋田県中央地区予選	管楽8重奏 金賞
■バトン部	第49回マーチングバンドパトントワリンク東北大会	金賞(全国大会出場)
■美術部	SDGs 全国子どもポスターコンクール	
	田村 心優 審査員賞	
	青木 悠姫 テーマ賞	
【その他の諸活動】		
■第83回秋田書道展	半紙の部 1年	大倉 早葵 2等
	半紙の部 1年	飯嶋 美こ 2等
	半紙の部 1年	曾根 美結 3等
	半紙の部 2年	鈴木 姫依 2等
	半紙の部 3年	星島夢涼乃 3等
	半紙の部 3年	崔 愛華 3等
	半紙の部 3年	金城 璃子 褒状
	条幅の部 1年	曾根 美結 入選
	条幅の部 2年	鈴木 姫依 3等
■大森山動物園親子ふれあい写生大会	佐々木沙彩	秋田市造形教育研究会会長賞
■第39回あきた全国舞踊祭舞踊コンクール	ジュニア二部門	吉村 心美 入選
■中学生の税の作文	石川 優衣、藤井 陽世	納税貯蓄組合連合会優秀賞
■第61回秋田県児童生徒美術展	平面の部	佐藤 愛菜 入賞 1年
	西田 和凜 入賞 2年	
	立体の部	江畑 佑星 入賞 3年
	加賀谷心美 入賞 3年	

地域の方から

11月 小学生体験入学

来年度、山王中学校への入学を希望する6年生の児童を対象に、小学生体験入学を実施しました。授業見学の後、1年生が主体となって学校生活について説明し、最後に、部活動の紹介を行いました。



私は、正副委員長として、山王中のよさを分かった。私には、分かりますように、スライドにあわせてゆつくりと原稿を読むことを心がけました。私たちの正副委員のスライドで、小学生が山王中の文化や生活について少しでも理解してくれたらと思います。

（1年 金 想多朗）

■私は、正副委員長として小学生体験入学で、中学校での生活について、スライドを交えてプレゼンテーションを行いました。小学生たちは、中学校の生活について期待を抱いていると思います。そこで、

■小学生体験入学に当たって、私は、正副委員として、山王中のよさを分かちやうと努力しました。スライドと解説を合わせるように意識しました。当日は、とても上手く説明ができました。また、部活動見学の時は、短い時間で、バレーボールの楽しさや部活動の雰囲気を感じてもらうために、工夫して部活動に取り組みました。一人一人が声を出し、笑顔で練習しました。少しでも、入部してくれればと思います。



12月 中学生向け企業ガイダンス

秋田県地域振興局主催「中学生向け企業ガイダンス」を開催しました。生徒たちは、参加した16企業の方々のブースを訪れ、仕事の内容や働く意義などについてのお話を真剣に聞いていました。

9月 カンコー未来塾～社会で活躍するために必要な力～

菅公学生服株式会社の職員による講話会を実施しました。リモートでの講話もあり、画面越しで岡山県と新潟県の菅公学生服の職員の方から「新しい時代をどう生かすか」「社会人になるまでに身に付けたい力は何か」などについて学ぶことができました。

十五歳の私へ



あきら
顕君、今、私はタイムスリップをして十五歳の時のあなたを思い出しています。あなたは今年、五十六歳のおじさんになったんだけど、十五歳のあなたに会いたくなったので、これからちよつと振り返つてみますね。

中学三年生のあなたは歴史と伝統ある山王中学校吹奏楽部の部長として、六十人の部員をまとめたり、毎日の練習計画を立てたりして頑張っていました。当時はお盆と正月以外休みがなかったけど、でもあなたは毎日が充実しているといっていましたね。

頑張った結果、全国大会には出場したけど、惜しくも銀賞でした。本当は金賞を目指して猛練習していただけに悔しかったね。あの試合場で流した涙は四十一年たった今でも忘れることができないよ！でもあの涙があったからこそ今のあなた、つまり私がいるんです。

吹奏楽部の先輩後輩の礼儀は厳しかったね。でも社会に出たらその厳しい礼儀作法がとも役に立ちました。職場の先輩から「渡部は礼儀正しい！」といわれました。部活のおかげです。コンクールでは演奏の課題を見つけ出し、それを克服するために仲間達と色々相談しましたね。これは大人になってから奥さんと良い家庭を築くために話し合ったり、職場の仲間と仕事の進め方を相談したりして、とても役に立ちました。これも部活のおかげだったよ。

それから勉強も少しは頑張ったようだけれど、あまり成績はよくなかったね。特に高校の卒業試験で、あなたは学年の最下位だったんだよ。でも、その後あなたはとてもよく勉強して、競争率の高かった消防官の試験に合格したり、救急救命士の養成所ではトップの成績で卒業したんですよ！成績がよくなかった反動が、逆に勉強すれば、やればできるということをあなたはその後気付いたんです。

そしてあなたが一番悩んでいた中三の秋ころ、勉強も部活もイヤになって担任の荻原幸美先生に相談したところ、ノートにすらすると、ことわざを書いていたきましたね。それは「艱難汝を玉にす」でした。あなたは、読み方も意味も分からず、先生に聞いたけど先生は黙ったままで教えてくれませんでしたね。その後あなたはその意味を辞典で調べたら「人は多くの苦勞を乗り越えてこそ立派な人間になる」ということを初めて知りました。

あなたはあの時、目が覚めました！「よし、今のこの苦勞はきつと将来のためになる。頑張ろう」と誓いましたね。その後は、やる気満々で部活も勉強も一生懸命頑張りましたね。あなたが、この時同時にあなたは「自分の得意なことはトクトン頑張れる、そうでない事はそれを捨ててもいい」ということを知ったようですね。

十五歳を過ぎてからのあなたは、担任の先生からいただいた言葉の時々思い出して、色々なことを経験しながら、少しずつ人生の勉強をしていったのですよ！

十五歳の顕君、そろそろお別れです。もしあなたがもつと勉強していれば、今の私はまた違った人生を歩んでいたかもしれません。

でも恩師の助言を受けて、その時自分で決めたこと、行動したこと、考えたことがその後の人生を大きく左右したんです。

渡部 顕

8月 環境防衛隊

例年竿燈まつり前後に竿燈大通りや学校周辺の清掃活動を行っている環境防衛隊ですが、今年は校舎内外の清掃活動を行いました。校舎への感謝の思いを伝えようと、普段手の届かない所の清掃に取り組みました。



■今年の環境防衛隊は、校舎内外の清掃活動を行いました。私は毎日通っている学校に感謝の気持ちを伝えたいと思い、参加しました。授業や部活動で三年間使ってきた体育館や毎日登下校ですっかりなじんでいる元旦前の掃除を行いました。友達と協力して清掃し、少しは恩返しができたのではないかと、思います。環境防衛隊に参加して、清掃は環境だけではなく、心も共に磨かれると感じることができました。（3年 中山 陽登）

志プロジェクトの成果

志プロジェクトの成果 本誌面で紹介しましたとおり、新型コロナウイルスの影響で活動を制限せざるを得ない状況のもと、目指す生徒像に近づけるために学習活動をどう進めるか、生徒の声を生かしながら工夫を重ねてきました。私たちの学校生活を支えてくださる地域の方、本来ならば訪問したであろう施設の方々、あるいは地域を支える職業人として社会で活躍している、人生の先輩に直接対面することがなくとも、生徒は絵手紙やインターネット等のコミュニケーションの手段を活用して社会の人々とつながりをもつことができました。このことは大きな成果だったと思います。地域を支える、我が国を支える、より多くの方々から学ぶことができる可能性を具現化した一年だったのではないかと思います。改めて皆さまのご協力に感謝申し上げます。（記：研究主任 佐藤健吉）

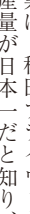


■私は、企業ガイダンスを通して、二つのことを学びました。一つ目は、正和会さんの講話から、自分か思っていた以上に、秋田に仕事があることです。プロ野球の選手以外には、ほとんどの仕事があり、多くの素晴らしい企業があります。ゴロ野学びました。二つ目は、秋田で働いている人々が勤勉で、とてもよい雰囲気です。仕事をしています。各企業の方々の説明がとても丁寧で、しかもユーモアを交えて説明している姿からそのことを感じ取ることができました。今回のガイダンスを通して、改めて秋田で働き、ふるさとに貢献したいと思いました。

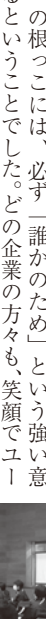
(1年 藤原 健)

■企業ガイダンスに参加した。最も印象に残っている企業は、秋田フライウィット株式会社の説明でした。フライウィットさんは、合板の生産量が日本一だと知り、とても驚きました。それと同時に、合板とは、複数の板を重ねてつくる家の屋根根柢をつくる板であることを初めて知りました。そのような、加工の難しい建材を作る、日本の企業が秋田にあること知り誇らしく思うことができた。今日の企業ガイダンスでは、秋田のよさを知ることができた。よかったと思います。

(1年 江畑 孝樹)



■各企業のブースを訪問し、説明を聞き感じたことは、働くこと」の根っこには、必ず「誰かのため」という強い意志があるということでした。どの企業の方々も、笑顔でユーモアを交えてお話になり、自分の仕事に誇りとやりがいを感じて働いていて、とてもすてきだなと思いました。今までは、働くことは、まだ将来の先のことだと考えていました。これからは、「誰かのため」になるということを考え、生活して行こうと思いました。貴重な体験ができて、とてもよかったです。 (1年 伊藤 沙弥香)



11月 平和学習講話会

平和の詩「生きる」の朗読や新聞記事の読み取りから始まった平和学習。「さとうきび畑の唄」の鑑賞や社会科の授業で戦争に至るまでの歴史の流れを学び、実際に戦争を体験した伊藤藤先生からは当時の学校生活について講話をしていただきました。多くの学びの場を通して平和の尊さやありがたみを強くするとともに、未来を担う者としていかに生きていくべきかを考えるきっかけになりました。




 ■これまで平和学習で様々な戦争の記録を学んできた。今回は伊藤先生の体験を聞くことができた。戦争については学習していたが、今回の講話は、伊藤先生の頭の中にある生きている記憶だ。それは資料などと違って見た戦争とは違っていた。洗脳や人を殺傷するための訓練などは、今の授業ではあり得ないことだ。さらに戦争が終わっても食料難が続く大変だったという経験は、実際に聞くことができたのはとても意味深い。戦争は本当にひどいものだというのを改めて実感した。

■特に大切にしたいと思ったことは「相手を理解すること」です。平和を守る身近なこととして、相手を差別しない、相手の話をよく聞く、話合いで解決する努力をすることだと思ひました。日本と外国では生活習慣やものの考え方が違うので、それを差別するのではなく、理解するまよに努めたいと思ひました。また、他の人と異なる意見をもつ人や自分と合わない人でも、まずは、相手を理解しようとするので、だんだん違ったものになってくるかもしれないので、相手を理解しようとすることは大事にやっていきたいと思ひました。

■今回の講話会で「平和を自分たちが守っていかなければならない」ということを強く思いました。伊藤先生の話の中で「何のためにこんなことをしたのか未だに分からない」「戦争の恐ろしさが身にしみて分かった」という言葉にとても重みを感じました。僕の曾祖母も戦争を体験していて、僕が小さい頃からよく話をしてくれていましたが、中学生になって改めて聞くととても怖い話だと思いました。これらの話の「続編」をつくらないことが僕たちの役目だと思います。そして「平和を守って生活をしていきたいです」

9月 絵手紙を送る活動

今年は、福祉施設を訪問しての地域貢献活動ができなくなりました。そこで、地域の一員として、自分の思いを絵手紙にして施設に送りました。



■私は、福祉施設への絵手紙に、入所者の皆さんに笑顔になってほしいという思いを込めました。どんな文章や絵が喜んでいただけるのか考えるのは、難しくもあり、楽しいことでもありました。そして、「あなたらしく咲きはこつてください」という文章に季節のお花の絵を添えて、私からのメッセージとしました。直接、顔を合わせてこそはできないけれど、私の手紙で笑顔になってくれているかもしれないと思うと嬉しいのです。

（3年 佐々木沙彩）

■今年は高齢者の方々々に直接お会いする地域貢献活動はできませんでしたが。私達はこの社会情勢の中で自分たちに何ができるかを考え、絵手紙を施設に送って地域の高齢者を元気づけようと、「絵手紙プロジェクト」に取り組みました。相手のことを考えながら手紙を書くのは、一生から学んできた思いやりの心の重要さをより深く感じることにつながると共に、三年間の自分自身の成長に気付かせられる活動になりました。

■私は高齢者の方々に温かい気持ちになってほしいという思いと、日頃の感謝を伝えたいという思いで絵手紙プロジェクトに参加しました。今年は直接お会いするが、自分達が書いた絵手紙に施設の方々からお返事をいただいた時はこちらの方が温かい気持ちになりました。そして、地域の方々とつながりを感じることができました。私達の書いた絵手紙が地域の方々の励みになっていたな嬉しいです。（3年 福田 乃愛）